

# 3歳未満児の発達と保育：保育現場における現状と課題

## Development and childcare of the children under 3 years of age : Current status and issues at the nursery schools.

漁田俊子\* 山田悟史\*\* 酒井範子\*\*\* 宮地由紀子\*\*\*\*  
那須恵子\*\*\*\*\* 漁田武雄\* 久保田貴之\*\*\*\* 日隈美代子\*\*\*\*\*

### 要約

保育士等キャリアアップ研修<乳児保育>に出席した保育士等663人に対して、3歳児の発達と保育の「勉強不足・困った感」調査を行った。日々の保育20項目（0歳児の発達と保育、食育、担当制、等）について4件法の回答結果では、「強く感じた」の1位は「新保育指針」、2位は「保護者への対応」、3位は「環境設定」であった。これらは、子どもに直結する事柄よりも、周辺事項（新保育指針、保護者対応、複数担任等）により多く起因していることを示している。

### キーワード

3歳未満児、乳児保育、保育士の資質向上、保育士等研修

- I はじめに
- II 方法
- III 結果と考察
- IV おわりに

### I. はじめに

本研究の目的は、「保育士の資質向上」である。

保育者の資質向上については、平成20年度施行の『保育所保育指針』（平成19年、厚生労働省）で改定の4要点の1つとして「保育の質を高める仕組み」の中でうたわれていたが、平成30年度施行の『保育所保育指針』（平成29年、厚生労働省）でも、「職員の資質・専門性の向上」が改定5方向性の1つとして取り上げられた。この「職員の資質・専門性の向上」が改定のポイントとなった背景の1つには、待機児童問題があった。即ち、厚生労働省は「待機児童解消等の保育ニーズへの対応→保育所・こども園の量的拡充→保育士の量的確保→保育士の待遇改善→キャリアパスを見据えた研修の実施→職員の資質・専門性の向上」という流れを提唱した訳である。

そこで、保育士のキャリアパスを見据えた研修体系における、「リーダー的職員育成のために必要な研修内容や実施方法等」について、国は一定の基準を定めたガイドラインを作成した（「保育士等キャリアアップ研修の実施について」平成29年4月、厚生労働省通知）。このガイドラインには、「目的」「実施主体」「研修内容、研修時間」「研修実施方法」「研修修了の評価等」「研修修了の情報管理」等が記載されている。また、「保育士のキャリアアップの仕組みの構築と処遇改善」（平成29年2月、厚生労働省）の中で「保育士等（民間）のキャリアパスを見据えた研修の実施→職員の資質・専門性の向上」という流れを提唱した訳である。

\* 本学経営学部教授  
\*\* 本学経営学部准教授  
\*\*\* 本学経営学部特任講師

\*\*\*\* 本学経営学部専任講師  
\*\*\*\*\* 静岡県立大学短期大学部非常勤講師  
\*\*\*\*\* 本学経営学部助教

リアアップの仕組み導入後の職制階層（イメージ）として、園長と主任保育士の下に新たな3つの役職（副主任保育士、専門リーダー：7年程度の経験、職務分野別リーダー：3年程度の経験）を新設するモデルを示し、副主任保育士、専門リーダーには月額4万円の処遇改善、職務分野別リーダーには月額5千円の処遇改善を行うこととした（図1）。

これらを受けて実施主体である都道府県等では、研修分野を、「ア．専門分野別研修（①乳児保育、②幼児教育、③障害児保育、④食育・アレルギー保育、⑤保健衛生・安全対策、⑥保護者支援・子育て支援）、イ．マネジメント研修、ウ．保育実践研修、の8つに分けて実施し、階級に応じて月給が上乘せされる仕組みを導入することとなった。

本研究では、厚生労働省の唱える量的な流れから少し離れて、保育士の資質向上という視点で、現在保育士が直面している保育についての課題を明確化し、そこに研修を位置づけていく、という方向性を提案する。漁田・

日隈・酒井・宮地・漁田・久保田・山田（2017）は、保育所保育指針改定前の保育所保育指針周知期間中（2017）に、保育士（保育教諭含む）396人を対象とした調査を実施した。調査内容は、保育士（認定こども園保育教諭含む）が日々の保育の中で困っていることや勉強不足と感じる内容19項目についてであった。

調査結果では、4件法（強く感じた・時々感じた・あまり感じなかった・感じなかった）の「強く感じた」の1位が「気になる子・発達の遅れが感じられる子、加配」、2位が「3歳未満児への対応の仕方・乳児保育」、3位が「担当クラスの保育内容」であった。また、「3歳以上児の教育」と「3歳未満児への対応の仕方・乳児保育」とを比較すると、後者を勉強不足と感じる人が有意に多かった [ $\chi^2(3) = 19.78, p < .001$ ]、としている。

そこで、まず本研究では、漁田ら（2017）の調査結果の「困った・勉強不足感」2位である研修分野ア①「乳児保育」を取り上げることとする。なお、「乳児保育」の対象児の年齢

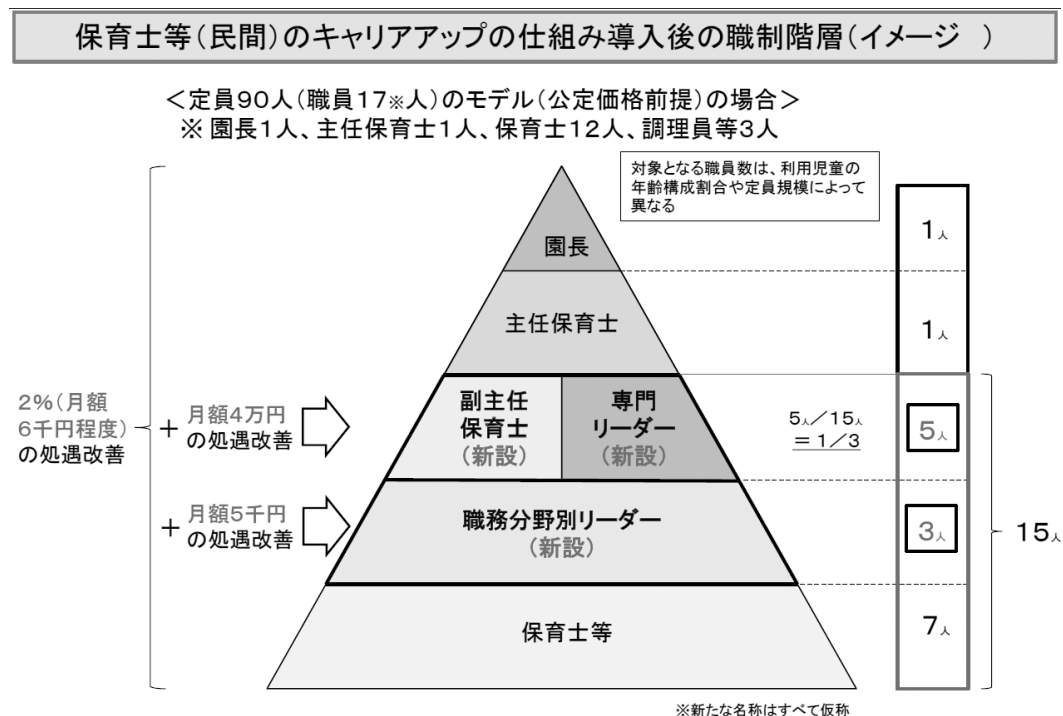


図1 保育士のキャリアアップの仕組みの構築と処遇改善（厚生労働省、2017）

についてであるが、平成30年度施行の『保育所保育指針』（平成29年、厚生労働省）の「第2章 保育の内容」では、3歳未満児について「1 乳児保育に関わるねらい及び内容」「2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」の通り、乳児（0歳児）と1, 2歳児の2つに分けている。一方、保育士等キャリアアップ研修における「乳児保育」では、「主に0歳から3歳未満児向けの保育内容」を指すとされている（「保育所保育指針の改定について」平成29年6月、厚生労働省）。そこで、本研究においては、今回に限り保育士等キャリアアップ研修に即して、「乳児保育」を3歳未満児の保育と捉えることとする。そして、保育士の資質向上に向かうための基礎資料として、保育士・保育教諭等を対象とした調査を実施し、保育所保育指針改定直後の保育者等、特にキャリアアップ研修に参加するベテラン保育者等が、「乳児保育」について感じる困難さ、即ち、日々の保育の中で困っていることや勉強不足と感ずることを取り上げる。

## Ⅱ. 方法

### 1. 手続

2018年6月15日（静岡県西部地域）、6月21日（静岡県東部地域）、6月29日（静岡県中部地域）に開催された「平成30年度静岡県保育士等キャリアアップ研修＜研修分野：乳児保育＞」（研修会講師：本研究第1著者）の中で、質問紙調査を実施した。その際、質問紙調査の集計結果は、2018年9月26日、9月27日に開催予定の同キャリアアップ研修（研修分野：乳児保育。9月26日27日それぞれの参加者は6月15日、21日、29日と同じ663人）で報告し、研修内容に使用することとした。

### 2. 調査対象

2018年6月15日に開催された「平成30年度静岡県保育士等キャリアアップ研修＜研修分野：乳児保育＞」に参加した静岡県西部の保育所または幼保連携型認定こども園に勤務する保育士等246人、2018年6月21日に開催された「平成30年度静岡県保育士等キャリアアップ研修＜研修分野：乳児保育＞」に参加した

静岡県東部の保育所または幼保連携型認定こども園に勤務する保育士等218人、2018年6月29日に開催された「平成30年度静岡県保育士等キャリアアップ研修＜研修分野：乳児保育＞」に参加した静岡県中部の保育所または幼保連携型認定こども園に勤務する保育士等198人、計662人と、静岡県保育士会所属園長1名（キャリアアップ研修対象者外）、計663人。なお、本研究における保育者とは、保育所の保育士と幼保連携型認定こども園の保育教諭を指す。今回の調査対象663人の中には、このキャリアアップ研修に参加した看護師3名が含まれている。

### 3. 調査項目

(1)「保育所の保育士や主任等が日々の乳児保育の中で勉強不足と感じていること・困っていること（または、過去に乳児保育の中で勉強不足と感ずたこと・困ったこと）」について行った予備調査によって作成された20項目（表7）を使用し4件法（強く感ずた・時々感ずた・あまり感ずなかった・感ずなかった）で回答を求めた。

(2)次に、(1)の4件法で「強く感ずた」に○をつけた項目についての具体的内容についても自由記述による記載を求めた（自由記述の項目選択は任意）。記載した具体的内容について、該当する項目番号も付記するように求めた。

(1)(2)いずれも、無記名調査とした。なお、本調査については、キャリアアップ研修用の個別ワークシートとして実施し、同日引き続いて行われたグループワークを行うための資料として使用した。

## Ⅲ. 結果と考察

### 1. 調査対象（保育士等キャリアアップ研修に参加した全663人）の内訳

対象の内訳を表1～表6（フェイスシート）に示す。フェイスシートは2018年4月1日時点での回答を求めた。表1（職位）の「その他」3名は全員看護師（保健師含む）であった。また、表6（保育教諭の経験年数）については、各地域の中に幼保園やこども園等が

3年以上前から存在し、そこに所属する保育者を保育教諭と呼んでいる個別の事情も散見された。しかし、制度上、幼保連携方認定こども園が発足して2018年4月1日時点で3年であったので、3年以上の記載を全て「1年以上～3年」に組み入れた。

## 2. 保育士・保育教諭が勉強不足と感じていること・困っていること

20項目の中で保育士・保育教諭が勉強不足・困っていることについて4件法（感じなかった、あまり感じなかった、時々感じた、強く感じた）で回答した結果を表7に示す。20項目中で、「困った・勉強不足」を「強く感じた」

表1 フェイスシート：職位

園長	1	0.2
主任(副園長、主幹等)	81	12.2
園長・主任以外の保育士	433	65.3
園長・主任以外の保育教諭	142	21.4
その他	3	0.5
無回答	3	0.5
合計	(人)663	(%)100.0

表2 フェイスシート：現在の担当

3歳未満児	452	68.2
3歳以上児	124	18.7
その他	84	12.7
無回答	3	0.5
合計	(人)663	(%)100.0

表3 フェイスシート：勤務先 経営主体

公立	23	3.5
私立・法人立	635	95.8
その他	1	0.2
無回答	4	0.6
合計	(人)663	(%)100.0

「時々感じた」が80%以上を占めたのは、「19) 新保育指針と保育学生の新しい学習」、「2) 1、2歳児の発達と対応（気になる子を含む）」、「15) 保護者への対応」、「9) 環境設定（屋内外）」、「5) 3歳未満児の保育課程と指導計画」、「4) 1、2歳児の保育内容」の6項目であった。

表4 フェイスシート：保育士(保母)経験年数

なし	34	5.1
1年未満	7	1.1
1年以上～3年未満	37	5.6
3年以上～5年未満	45	6.8
5年以上～10年未満	131	19.8
10年以上～20年未満	260	39.2
20年以上～40年未満	139	21.0
40年以上	1	0.2
無回答	9	1.4
合計	(人)663	(%)100.0

表5 フェイスシート：幼稚園教諭経験年数

なし	398	60.0
1年未満	12	1.8
1年以上～3年未満	36	5.4
3年以上～5年未満	29	4.4
5年以上～10年未満	50	7.5
10年以上～20年未満	32	4.8
20年以上～40年未満	7	1.1
40年以上	0	0.0
無回答	99	14.9
合計	(人)663	(%)100.0

表6 フェイスシート：保育教諭経験年数

なし	375	56.6
1年未満	47	7.1
1年以上～3年未満	137	20.7
無回答	104	15.7
合計	(人)663	(%)100.0

表7 乳児保育をする上で困ったこと・勉強不足を感じたこと（上段：人、下段：％）

	合 計	感 じ な か つ た	あ ま り 感 じ な か つ た	時 々 感 じ た	強 く 感 じ た	無 回 答
1) 0歳児の発達と対応 (気になる子を含む)	663 100.0	12 1.8	91 13.7	366 55.2	141 21.3	53 8.0
2) 1、2歳児の発達と対応 (気になる子を含む)	663 100.0	4 0.6	66 10.0	375 56.6	205 30.9	13 2.0
3) 0歳児の保育内容	663 100.0	16 2.4	127 19.2	323 48.7	141 21.3	56 8.4
4) 1、2歳児の保育内容	663 100.0	12 1.8	105 15.8	400 60.3	134 20.2	12 1.8
5) 3歳未満児の保育課程と指導計画	663 100.0	5 0.8	83 12.5	388 58.5	171 25.8	16 2.4
6) 担当制	663 100.0	64 9.7	138 20.8	191 28.8	168 25.3	102 15.4
7) 複数担任と正副のあり方	663 100.0	26 3.9	112 16.9	295 44.5	214 32.3	16 2.4
8) 他職種との関係	663 100.0	86 13.0	275 41.5	224 33.8	66 10.0	12 1.8
9) 環境設定（屋内外）	663 100.0	8 1.2	81 12.2	310 46.8	252 38.0	12 1.8
10) 遊具（屋内外）	663 100.0	10 1.5	136 20.5	327 49.3	174 26.2	16 2.4
11) 自然環境	663 100.0	48 7.2	202 30.5	297 44.8	103 15.5	13 2.0
12) 生活と遊び	663 100.0	12 1.8	147 22.2	353 53.2	136 20.5	15 2.3
13) 3歳未満児の行事への参加	663 100.0	33 5.0	206 31.1	298 44.9	113 17.0	13 2.0
14) 3歳以上の保育への連携 (13「行事への参加」含む)	663 100.0	35 5.3	197 29.7	315 47.5	91 13.7	25 3.8
15) 保護者への対応	663 100.0	12 1.8	73 11.0	290 43.7	278 41.9	10 1.5
16) 外国人家庭	663 100.0	77 11.6	129 19.5	243 36.7	161 24.3	53 8.0
17) 食育	663 100.0	20 3.0	179 27.0	330 49.8	118 17.8	16 2.4
18) 園の方針と周知	663 100.0	41 6.2	190 28.7	296 44.6	126 19.0	10 1.5
19) 新保育指針と保育学生の新しい学習	663 100.0	13 2.0	46 6.9	240 36.2	350 52.8	14 2.1
20) 保育研究 (方法と発表、順番制を含む)	663 100.0	100 15.1	104 15.7	173 26.1	192 29.0	94 14.2

### 3.「困った・勉強不足」を「(過去または現在) 強く感じた」項目の具体的内容

「困った・勉強不足」を「強く感じた」項目を図2に示す。ここでは、「強く感じた」の1位から3位までを取り上げる。

「困った・勉強不足」を「(過去または現在) 強く感じた」の1位は「19) 新保育指針と保育学生の新しい学習 (52.8%)」であった。今回の研修会に参加した多くの中堅・ベテラン保育者には、平成22年度以前のカリキュラムで学んだという者も多い。そのため、平成29年告示の保育所新保育指針についてはもちろんのこと、平成20年告示の保育所保育指針についても勉強不足感があることと、及び、平成23年度・平成31年度に導入された、あるいは、導入予定の保育士養成の新カリキュラムが未学習であることの両方が関連すると考えられる。また、長年幼稚園教諭として勤務し、最近3年以内に認定こども園に異動・赴任した保育教諭も同様の勉強不足感を感じていると思われる。自由記述欄には、「新任者がどのような勉強をしてきたのかなど、今まで考えてきていなかった。新指針をもう一度勉強し、受け入れを考えていかなくてはいけないと思った。」「今年の4月に勤務先がこども園となりました。今までずっと幼稚園教諭だったことに加え、この4月からの担当が2歳児でした。自分の保育実習以来の3歳未満児との関わりで、毎日生きた保育の中で学ぶことは多いですが、こども園のこと、保育のこと、細かいことまで勉強不足です。」「新指針については、保育雑誌の説明を読んだり、指針を見たりはするが、知識としてまだほとんど頭に入っておらず、勉強不足を感じている。」(原文のまま)と同様の記載が150以上見られた。

「困った・勉強不足」を「(過去または現在) 強く感じた」の2位は「15) 保護者への対応 (41.9%)」であった。保育所の役割として保護者支援が導入され(「保育所保育指針」<平成20年告示>)、保育者は保護者支援について、保育所の役割の1つの仕事として多くの困難を抱えることとなった。「気になる子は、やはり、家庭での環境が大きいと思う。(中略)言葉の遅れ等、気になることを保護者に

話すが、なかなか受け入れてくれない。その子にとっては、支援が必要だと思うが、どうしたら良いのか。」「気になる子の親御さんに話をしても、「我が子を信じたいんです」と言われ、様子をみて月日が流れてしまう。良いところばかりを伝えと、やはり大丈夫なのだと思われてしまい……。どのように伝えていったら良いのか。」「子どもの気になる行動など伝える際、内容がどちらかという和良好的内容ではないため、どう伝えていけばいいか悩んでいる。言い過ぎてしまうと悪く捉えられてしまったり、逆にやんわりと言うと伝えたいことが伝わらない。」「噛みつきが多い時期でもあり、噛みつく子、噛みつかれやすい子(被害によく遭う子)への対応と、その保護者への対応の仕方に悩むことがある。他の園ではどのように対応されているのか気になる。」「保育参観で、親子で体操や触れ合い遊びなど取り入れるが、保護者が座って見ていだけで一緒に遊びに参加しないことが増えてきた。声を掛けてもあまり反応せず、子どもだけが遊ぶ形になってしまっています。保護者が気持ち良く参加してもらえるにはどんな方法が良いか。(後略)」「保護者の方に子育て相談をされるとアドバイスができません困ることがあります。力になれないと落ち込みます。クレマーへの対応の仕方にも悩みます。」「すぐに熱を出してしまう子。両親は預けたい…子どものことを思うと大事をとってほしい。どこまで言って良いのか。」「子育てがうまくできない(料理ができない・寝かしつけができない)保護者、気持ちが不安定(産後うつ・夫婦関係が悪い)な保護者への支援が難しいです。アドバイスや話を聞くことはできません直接手助けできないのももどかしい。」(原文のまま)はその典型的な例である。この「15) 保護者への対応」の自由記述数は378件であった(表8)。これらは、「子どもの問題(噛みつき、発達の遅れ、病児預かり等)の伝え方の難しさ」、「保護者自身の生活や行動、クレームへの対応」、「育児相談に関する勉強不足感、自信のなさ」の3つに大別される。子どもの問題(噛みつき)については、加害児・被害児の保護者双方への伝え

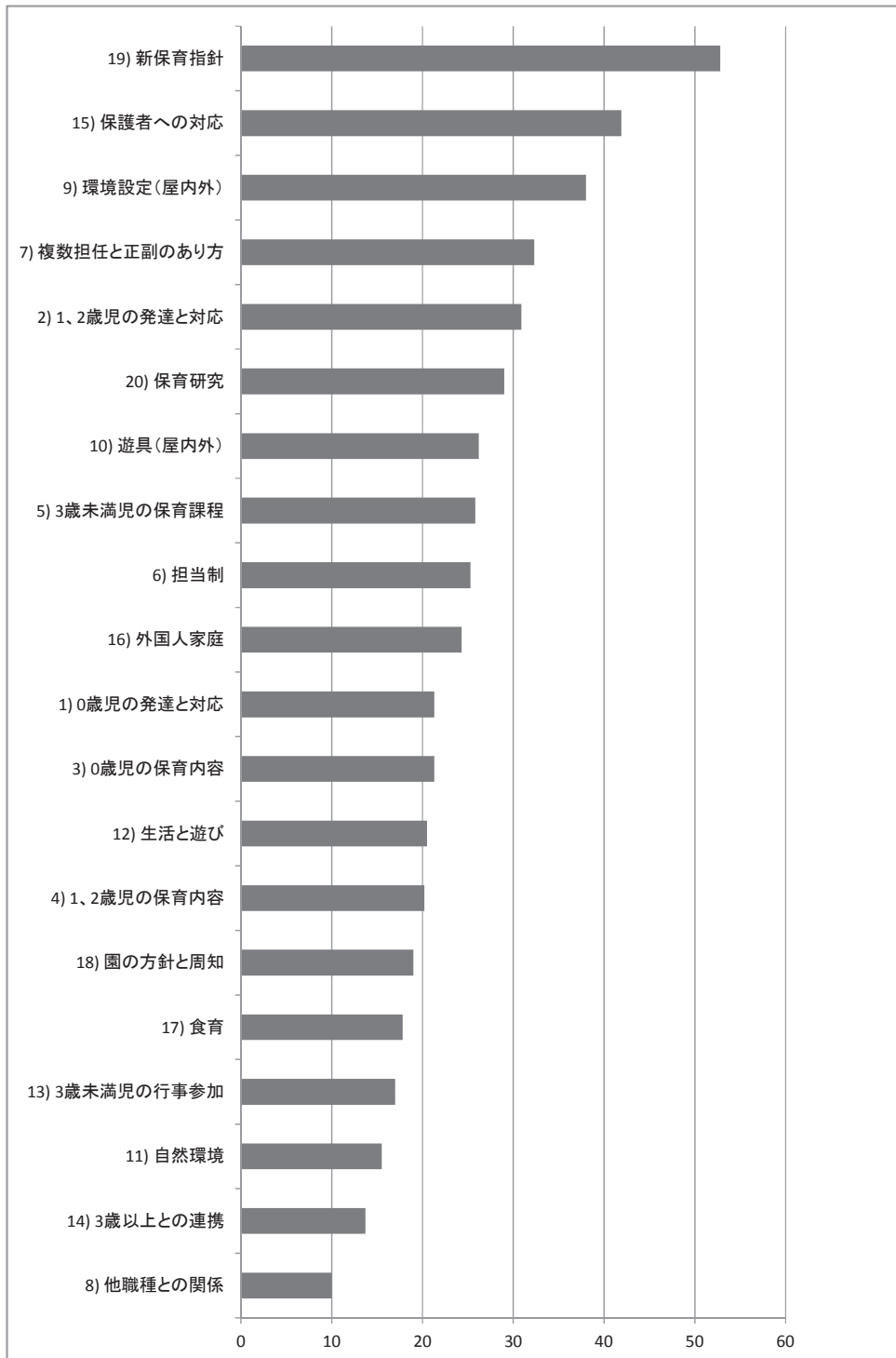


図2 「困った・勉強不足」を「強く感じた」項目 (%)



方が難しいとの記載が多数見られた。発達の遅れについては、日々子どもを見ていても、早期介入を必要とするレベルなのか個人差レベルなのかはつきり判断できない、という記述が多く見られた。さらに、保護者への伝え方や、保護者に伝えた後に個人差レベルと判定された時に起こるトラブル等を想像し、「勉強不足・困った」を強く感じているという事例も見られた。年齢が低いほど発達の個人差は大きい。特に、言葉、活動性（はいはいをしない、抱きつき方等）、社会性（目を合わせない等）の発達について判断の困難さを記述した内容が多かった。

「困った・勉強不足」を「(過去または現在)強く感じた」の3位は「9」環境設定(屋内外)(38.0%)であった。「1歳児担任の時、園庭の使い方探索遊びを存分にさせてあげたいが、範囲が広がると見届けられないため、どうしても止めてしまうため、安全面と主体的…というところで葛藤がある。」「“自らが選んで遊べる”環境づくりを求められるが、年齢が小さいと、出したり崩したりを楽しむため、手の届かないところへ片づけてしまう。それで良いのか、小さいなりに手の届くところにある方が良いのか聞いてみたい。」「園庭がないので、子どもが十分に遊び込める環境をつくってあげるのに悩んでいます。」「主体性のある遊びができるような環境づくりを目指して、おもちゃや遊び等を色々と考えたり工夫したりして行っていますが、限られた狭いスペースでもできる環境づくりのポイントやアイデアがあれば教えてください。」「天気・気候が良ければ以上児も未満児も園庭で遊ぶ時間がありますが、乳児用としての遊びスペースがありません。1・2歳の子が大きい子にお世話されて遊ぶ等の良い面もありますが、ボールが飛んできてぶつかったりするので、「今はその遊びはしないよ」と言うこともあり、乳児が室内で過ごすことが多いことが気になります。乳児クラスが2階にあるというのも、外への出にくさの要因でもあります。」「室内で走り回ってしまう子がいる。部屋も広く、環境自体が子どもを走らせてしまっている。子どもはどんな環境が落ち着く

のか。2歳児でもパーテーションをして、いくつかの遊び場が必要なのか。」「0・1歳児混合クラスの担任です。人数は0歳児2名、1歳児7名の計9名です。担当制保育を行っていて、食事・午睡・遊びのコーナーと分けています。遊びのコーナーは、フロア(空間も含め)が広過ぎるので、どのように仕切れば良いか困っています。」「乳児園庭がない。元が幼児向きで、幼児部が受け入れてくれない。」「1歳児クラスの担当だが、園の園庭が狭く、戸外で思い切り身体を動かして遊ぶことが難しい。室内でも発散方法はあるのか。行事があるとホール等の広い部屋も使用できないので、室内で身体を動かせる遊びが知りたい。」「主体性のある遊びができるような環境づくりを目指して、おもちゃや遊び等を色々と考えたり工夫したりして行っていますが、限られた狭いスペースでもできる環境づくりのポイントやアイデアがあれば教えてください。」「コーナーをできるだけ季節ごとに変えてはいるが、忙しい時期は玩具や環境がなかなか変えられず、そのままになってしまふことが多い。」「家庭的保育なので、保育施設に限りがあります。雨が降らない日は散歩へ出掛けたり、ピオトープに行ったりします。しかし、0歳児が増えると、外へ連れ出すことが難しくなります。」「工場や住宅の多い地域で、散歩先もほとんどありません。園内にも自然が乏しく、私個人としてはもっと自然の中で遊ばせたいと思うのですが、散歩も30分かけて遠くの公園に行くことを年3回ほどやる程度で困っています。」「雨天時の遊びの際、体をたくさん動かしたりして遊びたいが、広いスペースが限られており、そのスペースを3歳以上児が使用すると使用できないため、保育室内でもできる運動遊びはありますか。(保育室内でもマット等を使用して運動遊びをしています。)」、「1歳児クラスの担当だが、園庭が狭く、戸外で思い切り身体を動かして遊ぶことが難しい。室内でも発散方法はあるのか。行事があるとホール等の広い部屋も使用できないので、室内で身体を動かせる遊びが知りたい」(原文のまま)等、多岐にわたる記述が見られた。保育室と園庭



の構造上の問題（広すぎる、狭すぎる、3歳以上児との使い分け、保育室が2F）、コーナー保育（コーナーの作り方、仕切り方、パーティションの導入）、安全性と活動性とのジレンマ、についての記述が多かった。マンネリ化しやすい雨天の保育について、保育者は新たな保育内容を増やしていきたいという切実な願いを持っている。雨の日には、1日の中で静と動の活動を組み合わせることは難しい。ことに、雨天が続くと、2、3日同じような保育内容になることも多い。ここに、それぞれの園が持つ保育室の構造上の問題が加わり、「困った・勉強不足」の内容が多岐にわたっていると思われる。また、上記のような環境設定が十分でないことが、3歳未満児の保育を十分展開できないことに繋がり、噛みつき等を引き起こしているのではないかと思われるという事例も見られた。

次に、自由記述欄の具体的内容記載数について述べる（表8）。自由記述欄は、参加者663人に対し、20項目の中で保育士・保育教諭が勉強不足・困っていることについて4件法（感じなかった、あまり感じなかった、時々感じた、強く感じた）で回答した中から、「強く感じた」を選択した項目について、具体例を記載するように依頼したものである。その際、具体例と共に、当てはまる項目番号も記載するよう教示した。1つの記載内容について、項目番号が重複しているものが318あった。そのため、具体例の記載内容は2639件であったが、該当する項目番号の合計数は重複も含めて2957となった。

ここで、表7（図2）と表8を比較してみる。表7（図2）で「困った・勉強不足」を「強く感じた」項目は、19）新保育指針、15）保護者への対応、9）環境設定（屋内外）、7）複数担任と正副のあり方、2）1、2歳児の発達と対応、の順であった。一方、自由記述欄に、実際の事例として「困った・勉強不足」を「強く感じた」と記載された内容は、15）保護者への対応、2）1、2歳児の発達と対応、9）環境設定（屋内外）、7）複数担任と正副のあり方、6）担当制、の順であった。この差、特に表7（図2）で1位であった19）新保育指針

表8 自由記述欄の項目別具体的内容記載数

1）0歳児の発達と対応	49
2）1、2歳児の発達と対応	294
3）0歳児の保育内容	138
4）1、2歳児の保育内容	156
5）3歳未満児の保育課程	87
6）担当制	179
7）複数担任と正副のあり方	258
8）他職種との関係	76
9）環境設定（屋内外）	274
10）遊具（屋内外）	150
11）自然環境	78
12）生活と遊び	106
13）3歳未満児の行事参加	120
14）3歳以上との連携	82
15）保護者への対応	378
16）外国人家庭	147
17）食育	126
18）園の方針と周知	95
19）新保育指針	164
20）保育研究	73
（重複）計	2957
計	2639

が、表8では20位中19位になったのは何を表しているのだろうか。保育者にとって「新保育指針については、勉強不足を強く感じているが、とりあえず日々の保育の中で具体例を挙げられる程の悩みにはなっていない」ことがこの19位に表れている。それに対して、表8の15）保護者への対応、2）1、2歳児の発達と対応、9）環境設定（屋内外）、7）複数担任と正副のあり方、6）担当制は、日々の仕事に直結した具体的な悩みであると言える。

表7（図2）と表8の両方の結果は、「勉強不足・困った」が、子どもに直結する事柄よりも、周辺事項（新保育指針、保護者対応、複数担任、担当制等）により多く起因していることを示している。

また、数値としては多くなかったが、幼稚園教諭の所属する幼稚園が最近3年間に認定

こども園に移行し、全く経験のない3歳未満児に配属されたベテラン保育教諭の「勉強不足・困った」が、20項目全般の自由記述で散見された。保育教諭は、こども園化に伴い、『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』（平成26年、内閣府・文部科学省・厚生労働省）をよく勉強している。そして、幼稚園で3歳以上児担当として発達の知識や教育経験を多く積んできたにも関わらずその経験が、3歳未満児保育（特に0歳児担当）ではあまり活きないこと、及び自信喪失に繋がっていることも、改善していかなければならない人事的課題の1つである。これは、「保育所等における保育士配置に係る特例について」（平成28年、厚生労働省）の「児童福祉施設の設備及び運営に関する一部改正」に記載されている3つの特例（保育士配置、保育士数の算定）と同様、保育者の資質及び保育の質の根幹に大きく関わる事柄でもある。

#### IV. おわりに

漁田ら（2017）は0歳～就学前の子どもと保育全般について「困った・勉強不足」感を調査した。一方、今回の調査は3歳未満の子どもと保育に絞って行った。その結果、漁田ら（2017）の調査で「困った・勉強不足」感の第2位であった「3歳未満児への対応の仕方・乳児保育」の具体的内容が詳らになった。今回の調査では、「保護者への対応に問題はなかったか」、「子ども同士のトラブル（噛みつき等）はどうすれば解消できるか、また保護者にはそのことをどのように伝えればよいか」、「担当する子どもに発達の遅れがないか」、「どうすれば質の高い環境設定が出来るか」、「保育者同士の人間関係、特に複数担任や担当制の課題を円滑にするにはどうすればよいか」と保育者が日々悩み、さらに、明日に向けて自分の保育内容が向上するように勉強したい、という意欲も自由記述欄から多く読み取ることができた。

保育者は、日々の仕事の中で「困った・勉強不足」感をたくさん抱えている。これらを丁寧に解消していくことが、保育者の資質向上に繋がる。そして、保育者の資質向上は、

保育現場の質の向上に直結しているのである。

#### 引用文献

- 漁田俊子・日隈美代子・酒井範子・宮地由紀子・漁田武雄・久保田貴之・山田悟史（2017）. 保育士の資質向上: 研修の内容と形態. 静岡産業大学研究紀要『環境と経営』、第23巻第2号pp.101－109.
- 厚生労働省（2008）. 保育所保育指針〈平成20年告示〉フレーベル館
- 厚生労働省（2016）. 保育所等における保育士配置に係る特例について. (Retrieved from [https://www.hoyokyo.or.jp/nursing\\_hyk/reference/28-1s5.pdf](https://www.hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/reference/28-1s5.pdf) (2018年9月9日))
- 厚生労働省（2017）. 保育所保育指針の改定について. Retrieved from [https://www.hoyokyo.or.jp/http://www.hoyokyo.or.jp/nursing\\_hyk/reference/29-1s1.pdf](https://www.hoyokyo.or.jp/http://www.hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/reference/29-1s1.pdf) (2018年8月26日)
- 厚生労働省（2017）. 保育士のキャリアアップの仕組みの構築と処遇改善について. Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000155997.pdf> (2018年8月26日)
- 厚生労働省（2017）. 保育所保育指針〈平成29年告示〉フレーベル館
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2014）. 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領〈平成26年告示〉フレーベル館
- 注）本研究は、静岡産業大学2018年度特別研究支援経費の助成を受けた。本研究の一部は、日本子ども学会第15回子ども学会議（学術集会）にて発表した。